



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### サウジアラビア：アラブ連盟首脳会合に関する閣議声明 (4月2日付国営通信)

1. アブドラ国王は、3月29日にリヤドで閉会した第19回アラブ連盟首脳会合において、アラブ諸国の問題に関する重要な決議が採択されたことへの信頼を表明した。同決議はアラブ世界の将来における自信と楽観的精神の回復を希求し、全員がアラブの独自性、文化、価値および権利を守る責任に向き合うことを求めている。
2. 国王は、アラブ各国首脳が示した協力、正直、明確さ及び誠実さを高く評価している。これらの要因が今回の首脳会合の成果に繋がった。
3. 閣議は、リヤド宣言に盛り込まれたアラブ・イニシアティブ、ダルフル情勢に関する特別声明、ソマリア危機に関する声明などを始めとする本首脳会合より発出されたアラブの関心問題に関する諸決議を歓迎する。
4. 閣議は、アラブ各国首脳がリヤド首脳会合で至った結果は、平和、開発、改革及びアラブの意思決定の独立性を明らかにしたものであり、地域の諸問題の当事国者に対し、この事実を明確に理解するよう主張する。
5. 閣議は、パレスチナ問題の現状に関する責任は、パレスチナ人の封鎖を解き、全パレスチナ人を代表するパレスチナ挙国一致内閣と率直に協力すべき立場にある国々の方にあり、何よりもまずイスラエルは、和平実現のためにはパレスチナ人に対する非人道的侵略、虐待及び攻撃を止め、過去に国際機関が採択した全ての関係決議を受け入れる必要があると主張する。